

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H02047

研究課題名(和文) 子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して

研究課題名(英文) Comprehensive study on Child Poverty in Japan

研究代表者

松本 伊智朗 (Ichiro, Matsumoto)

北海道大学・教育学研究院・教授

研究者番号：20199863

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 25,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、子どもの貧困の現代的特質を明らかにすると同時に、政策的介入と支援のあり方を検討することである。そのために、大規模な子ども・家族を対象とした生活調査(3万人対象)を北海道で行った。あわせて、女性の貧困に関する理論的検討、社会的養護経験者に対する調査を行った。それらを通して、経済的問題、時間の確保、追加的ケアへの対応、ジェンダー平等の重要性、子どもの活動と経験、社会的ケアと社会保障制度の問題について検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもの貧困に関する研究と政策的対応は、現在の日本では子どもの教育・学習支援のあり方と親の就労機会の確保に焦点化されがちである。それに対して本研究では、以下の諸点の重要性を指摘した。第1に、家族における経済的資源の確保を基礎とすること、第2に家族における時間的資源の確保をあわせて行うこと、第3に、病気や障害、高齢者介護などの追加的ケアに対する対応がカギであること、第4に、ジェンダー平等の確保が同じくカギであること、第5に、社会福祉におけるケアの質や公共政策・制度の利用のしやすさそれ自体が、貧困と関係すること、等である。これらは、今後の研究と社会的議論に貢献しうる意義がある。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to examine the social characteristic of child and family poverty, and policy intervention in Japan. Under this aim, it had held Large scale survey to parent and children in Hokkaido(sample size is 30,000), survey on young care leavers(1,000) in Japan, and theoretical examination. Suggestions on policy context are follows. 1 Financial resources as core factor, 2 Importance of time resources, 3 Consideration to additional care in families(eg, illness, disability, elderly) is key issue to policy making, 4 Gender equality is also key, 5 Quality and accessibility of social care make influence to poverty itself.

研究分野：社会福祉論

キーワード：貧困 子どもの貧困 家族 ジェンダー 社会福祉 教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本において、「子どもの貧困」が学術的・政策的用語として広く使用されるようになったのは、近年のことに属する。本申請の応募者は、この問題の提起と社会化に、初期の段階から関与してきた。申請者らのものを含めて、2008 年ごろから子どもの貧困を直接的な主題とした研究が多く見られる。1990 年代後半から 2000 年代初頭は日本における「貧困の再発見」の時期であると考えられるが、英米の動向と同様に、福祉国家における「貧困の再発見」に伴って「子どもの貧困」が問題として浮上してきたといえる。これらの諸研究には大きく、貧困線を用いて子どもの貧困の動向、貧困リスクの分布、政策効果等を検証するもの、子どもの健康状態に焦点を当てるもの、教育費用の高騰と私費負担の構造、教育機会の不平等を問題にするもの、学業達成上の不利に対応する「学習支援」のあり方に焦点を当てるもの、若者期の貧困との接続に焦点を当て移行の不利を論じるもの、社会的孤立と排除の側面に焦点を当て包摂と参加のあり方を論じるもの、などがある。また最近の動向として、子ども虐待との関係を実証的に検討するもの、貧困に対する子どものレジリエンスの観点から自己肯定感・「貧困/不利/困難に負けない力」の育成を主題とする実践的な研究などが登場してきていた。研究のフィールドも、社会福祉領域で伝統的に取り上げてきた母子家庭、社会的養護の問題のみならず、一般人口を対象としたものに広がりを見せてきていた。こうした子どもの貧困の諸側面を検討する諸研究の進捗の結果、一定の知見の蓄積がなされつつあった。この段階で必要なことは、子どもの貧困問題の理解と研究を、広く社会の不平等・貧困問題の構造に明確に位置づける総合的研究である。理由は以下である。子育ての家族依存度が高く家族規範が強い社会では、子どもの貧困は「親責任」の問題として個別的・個人主義的に理解されやすく、子どもの貧困のみを問題とする研究・言説は、貧困問題の断片的理解を促進しかねず、結果として反貧困政策の総合化と反貧困運動の連携を阻害する。これらはいずれも、対策を矮小化させる可能性がある。例えば 2013 年の「子どもの貧困対策法」の成立は、問題を政策課題として位置づける上で大きな前進であるが、同時期に生活保護基準の切り下げが行われたことは、政策方向のねじれ、あるいは問題の断片的理解が生じている危惧を抱かせる。この中で現実の政策展開は、「学習支援」に傾斜しているように見える。こうした政策動向を批判的に検討し、子どもの貧困という観点から既存の反貧困政策を豊富化させ、かつ子ども政策の領域に反貧困の機能を付与するためには、個別の論点を総合化する議論の枠組みが必要である。本研究は、この点で理論的貢献を行うと同時に、これまでの関連分野における研究成果の継承と発展に寄与したいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、貧困の世代的再生産の過程と構造についての理論的、実証的研究を通して、子どもの貧困の現代的特質を明らかにすると同時に、政策的介入と支援のあり方を検討することである。子どもの貧困・貧困の世代的再生産過程を広く社会の不平等構造に位置づけ、地域社会の世代再生産構造、女性の貧困とジェンダー不平等、問題の集中層の分析と政策効果検証、当事者の貧困理解と社会意識等の分析、研究史の整理が行われる。そのために、A 地域社会調査、B 女性の貧困調査、C 社会的養護調査、D 貧困意識調査、E 研究史の整理と理論的検討、といった研究課題が設定される。これらはイギリスの研究者との連携下で行われ、理論的検討の幅を広げると同時に、研究コミュニティの形成を試みる。

3. 研究の方法

研究課題ごとに研究班を設け、研究を進めた。それぞれの研究方法は以下である。

A 地域社会調査：本研究の中核となる研究班である。2016 年度から 2017 年度にかけて、ほぼ全道を代表しうる 12 市町村において、2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者と子ども（小 5 以上）あわせて約 30000 人を対象としたアンケート調査を実施した。調査内容は、収入と就労の状況、健康状態、生活状況、制度利用、日々の活動、進路希望などである。また、北海道内の学生、勤労層、求職層の若者を対象としたアンケート調査を実施した（2019 年）

B 女性の貧困調査：子どもの貧困とジェンダー不平等の関係、世帯を単位として貧困を把握する方法が持つ、女性、子どもの貧困を把握する上での限界、それを具体的に把握するための先行研究の整理と調査方法の検討、という観点から、研究会を逐次開催した。実証的研究としては、北海道における母子世帯の母親の高齢期に焦点を当てたインタビュー調査、10 代での妊娠、出産を経験した女性に対するインタビュー調査を行った。

C 社会的養護調査：全国自立援助ホーム協議会の協力を得て、自立援助ホーム利用者の生活に関する全国調査、職員が感じる困難事例の調査を行った。

D 貧困意識調査：理論枠組みの検討と予備調査を実施した。

E 研究史の整理と理論的検討：研究会を逐次開催するとともに、北海道大学に保管されている 1980 年代からの貧困調査の調査票等の一次資料のアーカイブ化を進めた

4. 研究成果

A 地域社会調査：調査から確認される事実と政策的対応への示唆は以下である。

(1) 所得の状況：経済的格差の中で子育てが行われている。相対的貧困線以下の世帯は 12.6% で貧困率に近似している。合わせて母子世帯に貧困リスクが高いことが確認される。子どもの貧困対策において、ジェンダー平等への志向を明確にすること、雇用条件整備・安定的雇用の確保

が不可欠であることが示される。

(2) 時間と家計：母子世帯の母親に夜勤勤務の比率が高いことが確認された。所得保障・労働規制による時間の保障が不可欠である。合わせて、夜の時間帯の保育・子どもの居場所を確保する政策的対応が必要になる。また低所得世帯に赤字が多く、未払い・滞納の累積が確認された。すなわち病気や予定外の支出への対応可能性が低い家計構造にある。子育て費用の社会化、家族負担の軽減が必要であると同時に、支援の入り口として未払い・滞納問題を理解することが重要である。また、家計相談と所得保障・貸付を連動させ、滞納整理の仕組みを組み込むことが、福祉の確保の観点から重要である。

(3) 心身の健康：貧困は養育者の健康・精神的健康を悪化させる要因となる。あわせて、逆の関係にも留意することが重要である。医療・保健に貧困対策の視点をいれ、貧困層を排除しない制度が必要である。同時に教育・福祉に医療・保健の視点をいれ、子ども・家族の健康問題に配慮する実践を構築することが重要である。また、貧困と健康の悪化は、それぞれ受診抑制を促進することが確認された。実質的な医療アクセスの保障が、費用、時間、通院手段等の観点から必要になる。この受診抑制は、養育者により強い。子どもの貧困対策において、子どもだけではなく、親への支援、特に親に負担が集中することへの留意／親の休息時間の確保が重要である。

(4) 家族における追加的ケア：障害のある子どもがいる家族は約8%である。貧困・低所得層に、より障害のある子どもが多い。子どもの貧困対策の中に障害児・者支援を位置づけること、家族のケアの必要が経済的制約を生むことへの留意が必要である。また、介護などケアを必要とする大人のいる家族は約4%である。これは貧困・低所得層により多い。家族のケアの必要が経済的制約を生むことへの留意とともに、家族支援・家族政策の視点が重要である。子どもの貧困問題を、資源配分をめぐる世代間対立の観点からとらえないことが、必要である。

(5) 社会的ネットワークと制度利用：貧困と社会的孤立が相互規定的関係にあることが確認された。社会関係を豊かにする実践の必要性とともに、孤立は「見えにくさ」を招くことの認識が重要である。特に、2歳児の親の孤立度が高いことは、重要な発見である。保育所等の効果の再確認と同時に、子育て支援の強化が貧困対策の観点からも重要である。また、低所得層ほど社会制度・サービスからの排除傾向があることが示された。情報の周知・アクセスの保障とともに、支援者・支援機関からの人として尊重される対応、「傷つけられたので行きたくない」という経験を防ぐ観点が不可欠となる。

(6) 子どもの経験の不平等：貧困は子どもの活動・経験を制約することが確認された。家族資源に依存しない子どもの活動の機会の保障が重要である。

(7) 進学希望・機会の格差：進路希望・機会は経済的格差、地域的条件に強く影響されることが、進学費用の準備は家族の経済的条件による格差があることが確認された。教育費の私費負担の軽減、高等教育費の無償化とともに、学校の適正配置、過疎地への配慮が重要になる。合わせて、生活保護世帯の子どもの進学希望は高いが、進学率は低いことが確認された。教育保障の観点からの生活保護制度運用・改正が必要である。喫緊には、「世帯分離」による保護打ち切りの取りやめが政策的な選択肢である。

これらの結果は、学会報告、報告書、個別論文ですでに公表されている。現在(2020年5月)、最終的などりまとめを行っており、2020年8月には、松本編著「子どもの貧困に関する政策・実践の課題(仮)」として法律文化社から出版の予定である。北海道内の学生、勤労層、求職層の若者を対象としたアンケート調査の結果は、現在分析中で、2020年度内には公表の予定である。

B 女性の貧困調査

研究会の成果として、2017年10月に松本伊智朗編著、「子どもの貧困を問いなおす(法律文化社)」を出版した。その後世帯内に隠された貧困の把握方法という観点から研究会は継続されており、支援関係者に対するインタビュー調査を開始した。本課題は、分担研究者(鳥山まどか)による別科研費に引き継がれている。北海道における母子世帯の母親の高齢期に焦点を当てたインタビュー調査の結果からは、子育て期のケア役割の負担が、その後のライフコースに与える影響について確認され、現在取りまとめ中である。10代での妊娠、出産を経験した女性に対するインタビュー調査は、研究枠組みと調査方法の検討を終え、予備調査の実施途中であるが、コロナ問題の影響で現在インタビューを中断している。

C 社会的養護調査

全国調査結果の一部は、中間報告として全国自立援助ホーム協議会に報告している。対象となった退居者は1715人で、全国の悉皆調査になる。学歴は中卒が25%、高校中退が35%である。ホームからみた生活の安定度は、「やや安定している・とても安定している」をあわせても32%となっており、社会的不利が集中している集団と考えられる。困難事例調査は99事例の回答があった。これらの結果を現在分析中で、2020年度内には公表予定である。なお、本研究班の課題は、分担研究者(長瀬正子)を代表とする別科研に引き継がれている。

D 貧困意識調査

大学生を対象とした予備調査を実施した。2004年から2006年にかけて行われた同様の調査結果と比較しても、絶対的貧困の観点が根強く残っていることが示唆されている。今後の本格的な実施に向けて、継続的な検討が必要である。

E 研究史の整理と理論的検討

研究会の成果をうけて、子ども・家族の貧困研究史の予備的整理を公表した(松本、後述「シリ

ーズ子どもの貧困」第1巻序章)。また北海道大学所蔵の貧困調査の1次資料のアーカイブ化は、地域における生活調査、障害児・者調査、数回にわたる児童養護施設退所者調査、虐待調査、DV調査のPDF化、江口英一、P・タウンゼントの講義、講演録のデータ化が終了し、今後の研究の基礎資料の構築が進んだ。

研究コミュニティの形成

上記の研究成果を反映して、2019年～20年にかけて「シリーズ子どもの貧困：全5巻」を刊行した。研究代表者の松本が編集代表、8名の編集委員のうち7名が分担研究者である。分担研究者の多くが執筆者として参加(15名)、関連する研究者60名が参加、本研究の目的の一つである研究コミュニティの形成を進めた。あわせて、2017年の「子どもの貧困を問いなおす」の出版(前述)、近刊の「子どもの貧困に関する政策・実践の課題」の出版、関連するフォーラム等の開催を通して、日本における子ども・家族の貧困研究者の相互交流と研究コミュニティの形成に寄与できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 松本伊智朗	4. 巻 19-3
2. 論文標題 在宅措置制度を構想できるか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 子どもの虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁 289-291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野良一	4. 巻 45-7
2. 論文標題 子どもの貧困対策を斬る	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 200-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野良一	4. 巻 2-1
2. 論文標題 母子世帯と子どもへの虐待：抑うつ分析も含め	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会保障研究	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野良一	4. 巻 151
2. 論文標題 子どもの貧困と虐待	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山里美	4. 巻 8月号
2. 論文標題 見えない女性の貧困とその構造 ホームレス女性の調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原千沙	4. 巻 711
2. 論文標題 日本における「子どもの貧困」問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 33-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原千沙	4. 巻 9-2
2. 論文標題 「生活できる賃金」をめぐる研究史 労働時間と社会保障の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会政策	6. 最初と最後の頁 23-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原千沙	4. 巻 694
2. 論文標題 地方における母子世帯の暮らしと生活保護 自動車の保有・使用の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月刊自治研	6. 最初と最後の頁 24-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬正子	4. 巻 66
2. 論文標題 子どもの「権利を伝える」ことの一考察 全国の改定された「子どもの権利ノート」を中心に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知県立大学教育福祉学部論集	6. 最初と最後の頁 57-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新藤こずえ	4. 巻 20
2. 論文標題 複合的な不利を抱える家庭で暮らす障害のある子どもの支援に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立正大学社会福祉研究所年報	6. 最初と最後の頁 115-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田真衣	4. 巻 200
2. 論文標題 子どもを産み育てられない社会を変えていくために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クレスコ	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田真衣	4. 巻 205
2. 論文標題 貧困の中の子ども達と生活指導の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高校生活指導	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田真衣	4. 巻 336
2. 論文標題 困難を生きる高卒女性たちと医療	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国民医療	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中智子	4. 巻 45-3
2. 論文標題 障害者の母親における長期化するケアラー役割	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西祐馬	4. 巻 288
2. 論文標題 子どもの貧困と平和	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 140-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤真平 松本伊智朗	4. 巻 80巻7号
2. 論文標題 日本の子どもの貧困の現状	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 462-469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本伊智朗	4. 巻 58-3
2. 論文標題 子どもの貧困を考える視点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 165-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉中季子	4. 巻 2018年4月号
2. 論文標題 母子世帯の貧困 - 高齢期への視点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 労働調査	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田真衣	4. 巻 102
2. 論文標題 東京に生きる若年女性のキャリア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育社会学研究	6. 最初と最後の頁 125-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永野咲、谷口由希子、長瀬正子、他	4. 巻 20-2
2. 論文標題 社会的養護の子どもの参加・参画をめぐって - 当事者の声とそれを支える大人たちの役割	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもの虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁 180-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬正子 谷口由希子	4. 巻 21-4
2. 論文標題 社会的養護当事者の「声」 - 施設退所後に困難な状況にある当事者たちに焦点をあてて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子どもの虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁 282-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野良一 二宮千賀子	4. 巻 912
2. 論文標題 子どもの貧困、解決への道 三年間の調査を通じて見えてきたもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 94-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野良一	4. 巻 19-1
2. 論文標題 貧困：家族依存社会の中でいきること	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 25-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弘通 水野君平	4. 巻 10
2. 論文標題 札幌市の小学生・中学生の生活と意識についての調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子ども発達臨床研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川田学	4. 巻 7
2. 論文標題 乳幼児の遊びをめぐる「貧困」とは何か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床教育学研究	6. 最初と最後の頁 34-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弘通他	4. 巻 13
2. 論文標題 小・中学生の生活意識と遊び	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子ども発達臨床研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤 弘通	4. 巻 31
2. 論文標題 思春期における自尊感情研究の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青年心理学研究	6. 最初と最後の頁 78~81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.20688/jsyap.31.1_78	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木佳代	4. 巻 24
2. 論文標題 幼児を育てる親の育児時間増加に関する考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育福祉研究	6. 最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山まどか	4. 巻 739
2. 論文標題 マネープログラム（借金・滞納）に関する研究にみる「世帯の中に隠れた貧困」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤原理佐	4. 巻 176
2. 論文標題 発達障害児家族への支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬正子	4. 巻 103-3
2. 論文標題 ここから先にすすむために：社会的養護の当事者の「声」と視点を活かす	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊福祉	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計33件（うち招待講演 20件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 北海道子どもの貧困調査から見えるもの
3. 学会等名 第118回小児精神神経学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困を考える視点
3. 学会等名 日本女性会議2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 調査結果に見る子どもの貧困
3. 学会等名 第3回稚内市子どもの貧困対策講演・シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困研究の枠組みと課題
3. 学会等名 連続フォーラム「北海道の子どもの生活と貧困」第1回
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困調査から考えるべきこと
3. 学会等名 フォーラム：子どもの貧困を考える (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困を考える視点
3. 学会等名 ひょうごこころの医療センター子どもの心の資料ネットワーク事業シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yayo Okano and Satomi Maruyama
2. 発表標題 The lack of care/the lack of participation: From experience of poor women in Japan, Caring Democracy
3. 学会等名 Current Topics in the Political Theory of Car
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長瀬正子
2. 発表標題 社会的養護の子どもも参加・参画をめぐって 当事者の声とそれを支える大人たちの役割
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第23回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永野咲、谷口由希子
2. 発表標題 児童養護施設からの大学進学に関する経年的変化（1）
3. 学会等名 日本子ども家庭福祉学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷口由希子、永野咲
2. 発表標題 児童養護施設からの大学進学に関する経年的変化(2)
3. 学会等名 日本子ども家庭福祉学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関あゆみ、上山浩次郎、大谷和大、鳥山まどか、加藤弘通、川田学、大澤真平、松本伊智朗
2. 発表標題 子ども恩障害と家族の社会経済的問題との関係：北海道子どもの生活実態調査から
3. 学会等名 第60回小児神経学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 貧困・家族・子育て
3. 学会等名 日本青年精神医学会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困と私たちの社会
3. 学会等名 えべつ革新懇(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困とは何か？ - こどもの今を見つめる -
3. 学会等名 札幌市私立保育園連盟研修会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困問題と学校教育について考える
3. 学会等名 SSW 夏の集い・第5回大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困対策を考える
3. 学会等名 秋田県社会福祉大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困と居場所
3. 学会等名 広がれ、子ども食堂の輪！全国ツアー in鳥取（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの生活実態調査から考えること
3. 学会等名 日本保育協会北海道支部研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子育て家族の貧困と健康
3. 学会等名 代67回日本口腔衛生学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困を問いなおす
3. 学会等名 第54回佐賀県地方自治研究集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子どもの貧困を問いなおす
3. 学会等名 わが町西成子育てネット講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 調査から見る子どもと親の生活と意識
3. 学会等名 フォーラム子どもの貧困を考えるin函館（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉中季子
2. 発表標題 居住喪失した女性の貧困 - 一時生活支援事業の事例検討から
3. 学会等名 貧困研究会第11回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長瀬正子
2. 発表標題 児童養護施設における子どもの意見表明に関する考察 - 入所中の権利擁護の取り組みに焦点をあてて
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 今日の子育てと貧困 - 北海道子どもの生活実態調査から
3. 学会等名 北海道子どもの虐待防止協会2019年総会記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 子ども・家族の生活と貧困-北海道子どもの生活実態調査から
3. 学会等名 第53回サイエンス・フォーラム・コンソーシアム札幌（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本伊智朗 伊部恭子 新藤こずえ 永野咲 谷口由希子 長瀬正子
2. 発表標題 自立援助ホーム退居者の生活状況に関する調査中間報告
3. 学会等名 第26回全国自立援助ホーム協議会 神奈川・横浜大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本伊智朗
2. 発表標題 貧困からみた子どもの権利擁護
3. 学会等名 西日本子ども研修センターあかし（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤弘通
2. 発表標題 貧困と発達の関係
3. 学会等名 心理科学研究会2019秋の研修
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi Maruyama
2. 発表標題 Anlysis in Japan:State of the Art
3. 学会等名 MOney within the Household (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木宏
2. 発表標題 「シリーズ子どもの貧困3 教える・学ぶ」の問題意識
3. 学会等名 2019年度 広島大学現代インドセンター 第1回特別研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷口由希子
2. 発表標題 地方自治体における子どもの権利擁護のための第三者機関に関する考察 - 名古屋市における機関設置に向けた過程に焦点をあてて
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長瀬正子
2. 発表標題 児童養護施設等における子どもの権利擁護に関する考察 - 改定された「子どもの権利ノート」における「暴力」のテキストを中心に
3. 学会等名 日本社会福祉学会第67回秋季大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 松本 伊智朗、湯澤 直美、藤原 千沙、阿部 彩、フラン・ベネット、蓑輪 明子、丸山 里美、鳥山 まどか、吉中 季子、大澤 真平、杉田 真衣、藤原 里佐、田中 智子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 274
3. 書名 「子どもの貧困」を問いなおす	

1. 著者名 なくそう子どもの貧困全国ネットワーク、中嶋 哲彦、山野 良一、平湯 真人、松本 伊智朗、湯澤 直美、 「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワーク	4. 発行年 2016年
2. 出版社 かもがわ	5. 総ページ数 239
3. 書名 子どもの貧困ハンドブック	

1. 著者名 松本 伊智朗、松本 伊智朗、湯澤 直美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 352
3. 書名 生まれ、育つ基盤	

1. 著者名 松本 伊智朗、小西 祐馬、川田 学	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 352
3. 書名 遊び・育ち・経験	

1. 著者名 松本 伊智朗、佐々木 宏、鳥山 まどか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 教える・学ぶ	

1. 著者名 松本 伊智朗、杉田 真衣、谷口 由希子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 260
3. 書名 大人になる・社会をつくる	

1. 著者名 松本 伊智朗、山野 良一、湯澤 直美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 336
3. 書名 支える・つながる	

1. 著者名 北海道大学教育学部、宮崎 隆志、松本 伊智朗、白水 浩信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 200
3. 書名 ともに生きるための教育学へのレッスン40	

1. 著者名 良純隆弘 川口洋誉 鈴木晶子 加藤弘通	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 子どもの貧困と地域の連携・協働	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	湯澤 直美 (Yuzawa Naomi) (00277659)	立教大学・コミュニティ福祉学部・教授 (32686)	
研究分担者	関 あゆみ (Seki Ayumi) (10304221)	北海道大学・教育学研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	蓑輪 明子 (Minowa Akiko) (10613507)	名城大学・経済学部・助教 (33919)	
研究分担者	永野 咲 (Nagano Saki) (10788326)	昭和女子大学・人間社会学部・助教 (32623)	
研究分担者	加藤 弘通 (Kato Hiromichi) (20399231)	北海道大学・教育学研究院・准教授 (10101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長瀬 正子 (Nagase Masako) (20442296)	佛教大学・社会福祉学部・講師 (34314)	
研究分担者	丸山 里美 (Maruyama Satomi) (20584098)	立命館大学・産業社会学部・准教授 (34315)	
研究分担者	大谷 和夫 (Otani Kazuhiro) (20609680)	北海道大学・教育学研究院・助教 (10101)	
研究分担者	岩田 美香 (Iwata Mika) (30305924)	法政大学・現代福祉学部・教授 (32675)	
研究分担者	大澤 亜里 (Osawa Ari) (30760227)	札幌大谷大学短期大学部・その他部局等・講師 (40107)	
研究分担者	鳥山 まどか (Toriyama Madoka) (40459962)	北海道大学・教育学研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	佐々木 宏 (Sasaki Hiroshi) (50322780)	広島大学・総合科学研究科・准教授 (15401)	
研究分担者	杉田 真衣 (Sugita Mai) (50532321)	首都大学東京・人文科学研究科・准教授 (22604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山野 良一 (Yamano Ryoichi) (50618600)	沖縄大学・人文学部・教授 (38002)	
研究分担者	田中 智子 (Tanaka Tomoko) (60413415)	佛教大学・社会福祉学部・准教授 (34314)	
研究分担者	上山 浩次郎 (Ueyama Kojiro) (60751089)	北海道大学・教育学研究院・助教 (10101)	
研究分担者	藤原 千沙 (Hujiiwara Chisa) (70302049)	法政大学・大原社会問題研究所・教授 (32675)	
研究分担者	吉中 季子 (Yoshinaka Toshiko) (70434800)	神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・准教授 (22702)	
研究分担者	福間 麻紀 (Hukuma Maki) (70581867)	北海道医療大学・看護福祉学部・講師 (30110)	
研究分担者	大澤 真平 (Osawa Shinpei) (70598549)	札幌学院大学・人文学部・准教授 (30103)	
研究分担者	藤原 里佐 (Hujiiwara Risa) (80341684)	北星学園大学短期大学部・短期大学部・教授 (40118)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川田 学 (Kawata Manabu) (80403765)	北海道大学・教育学研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	谷口 由希子 (Taniguchi Yukiko) (80449470)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授 (23903)	
研究分担者	中澤 香織 (Nakazawa Kaori) (80640474)	札幌大谷大学短期大学部・その他部局等・教授 (40107)	
研究分担者	伊部 恭子 (Ibe Kyoko) (90340471)	佛教大学・社会福祉学部・教授 (34314)	
研究分担者	山内 太郎 (Yamauchi Taro) (90369223)	札幌国際大学短期大学部・幼児教育保育学科・准教授 (40109)	
研究分担者	新藤 こずえ (Shindo Kozue) (90433391)	上智大学・総合人間科学部・准教授 (32621)	
研究分担者	小西 祐馬 (Konishi Yuma) (90433458)	長崎大学・教育学部・准教授 (17301)	
研究分担者	加藤 佳代（鈴木佳代） (Kato Kayo) (90624346)	愛知学院大学・総合政策学部・講師 (33902)	